

平成25年度 東洋美術学校
項目別・自己評価表

平成26年 3月31日



学校法人
専門学校

東洋美術学校

TOYO INSTITUTE OF ART & DESIGN

目 次

1. 学校の教育目標
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画
3. 評価項目の達成及び取組状況
 - (1). 教育理念・目標
 - (2). 学校運営
 - (3). 教育活動
 - (4). 学修成果
 - (5). 学生支援
 - (6). 教育環境
 - (7). 教職員の配備について
 - (8). 学生の受入れ募集
 - (9). 財務
 - (10). 法令等の遵守
 - (11). 社会貢献・地域貢献
 - (12). 国際交流
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果
 - (1). 教育評価
 - (2). 財務評価
 - (3). 一般的評価
5. 学校関係者評価委員の評価結果について

1. 学校の教育目標

東洋美術学校は、視野の広いアーティスト・デザイナーを育成することを目的とし、心・技・感性のバランスのとれた人材を育成すると同時に、アナログとデジタル双方をバランスよくとらえることの出来る、情報化社会において、クリエイティブの在り方について考え、社会に求められる職業教育を行う。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

インターンシップとカリキュラムの関係が、より効果的になるプログラムへ変革させることを重点的な目標とし、学外の意見を取り入れた計画を、単年度だけでなく、中長期にわたる計画の策定。

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	④ 3 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

① 課題

〔 変化の激しい業界において、実践的プログラムをカリキュラムにどの用に採用するかを課題とする。 〕

② 今後の改善方策

〔 流行の取り入れをしても、基本的な建学の精神にのっとりた教育に影響のないような改善方策とする。 〕

③ 特記事項

〔 定期的に学内外の意見の交換を行い、常に学生の為になる教育理念の達成を目的とする。 〕

(2). 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 ③ 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④ 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

〔 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制をもって強化すること。 〕

② 今後の改善方策

〔 教育活動等に関する情報公開をWEB上にて、公開することを改善方策とする。 〕

③ 特記事項

〔 美術学校という特殊性を考えるだけでなく、社会的にも反映される運営を行う。 〕

(3). 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

〔 留学生のための教職員の語学不足が課題。又、非常勤講師の管理体制を課題とする。 〕

② 今後の改善方策

〔 教職員の語学研修を改善方策とする。又、産業界からの講師を増やすことを改善方策とする。 〕

③ 特記事項

〔 産業界との連携を多くする。 〕

(4). 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	(4) 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 (3) 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 (3) 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(4) 3 2 1

① 課題

〔 就職の意義をとらえること、職に就くことを基本にして指導すること。 〕

② 今後の改善方策

〔 学生の卒業後の進路を、学生個々の適正を判断しながら、より正しく指導する面談回数を増やす。 〕

③ 特記事項

〔 キャリアカウンセラーの有資格者の増員を実施する。 〕

(5). 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生相談に関する体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 (3) 2 1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4) 3 2 1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4) 3 2 1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4 (3) 2 1
・保護者と適切に連携しているか	4 (3) 2 1
・卒業生への支援体制はあるか	4 (3) 2 1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 (3) 2 1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

〔 高等学校・高等専修学校との連携を強化することを課題とする。 〕

② 今後の改善方策

〔 キャリア教育・職業教育のなかでの美術・デザイン教育の取組と、美術・デザイン教育への理解を増やすことを改善方策とする。 〕

③ 特記事項

〔 卒業生の作品展覧会などに支援を行うため、本校ギャラリーの特別価格での貸し出しを行っている。 〕

(6). 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 ③ 2 1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

① 課題

〔 インターンシップを増やすと同時に、学内カリキュラムとインターンシップの関連性の研究を課題とする。 〕

② 今後の改善方策

〔 学内カリキュラムは、独自の計画により作成されているので、インターンシップの取り入れ方を改善策。 〕

③ 特記事項

〔 海外研修は、学生の個人負担が大きく、現在、学校としては推進していない。
防災に対しては、定期的に施設点検を実施している。 〕

(7). 教職員の配備について

〔 教職員については、専任の教員40名・職員9名、兼任の教員228名を配備し、十分な教育体制で対応した。専任教員については、専門学校・大学・大学院卒業の教員をバランスよく配置し、より学科の専門性を高められるように努めた。兼任教員については、学芸員有資格者、心理カウンセラー、現役デザイナー、修復家等、設置学科に対応した人員を幅広く登用し、各学科の充実を図った。 〕

(8). 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
・学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

〔 18才人口減少による、成年層のリカレント教育の募集の活動を課題としている。 〕

② 今後の改善方策

〔 社会状況との必要性により、新たな夜間部学科の設置を改善方策とする。 〕

③ 特記事項

〔 教育効果は、常に単年度の評価ではなく、美術学校教育の特性から10年後の活躍を成果として目標にしている。 〕

(9). 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

① 課題

〔 今後の入学生の減少に備えた、財務体系の計画を構築する。 〕

② 今後の改善方策

〔 年度毎の収支計画表を作成する。 〕

③ 特記事項

〔 特に無し。 〕

(10). 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
・ 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

① 課題

〔 学校内においては、自己点検は行っているが、外部関係者による点検を推進することが課題。 〕

② 今後の改善方策

〔 学校評価委員会の充実を図る。 〕

③ 特記事項

〔 学生・生徒の安全対策のため、施設の安全点検を定期的に行う。 〕

(11). 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

〔 様々な角度からボランティア活動の社会をとらえて、学生の支援を計画したい。
又、地域において、無料の講習会を行う。 〕

② 今後の改善方策

〔 地域の要望を適格にとらえて、公開講座開講を改善方策とする。 〕

③ 特記事項

〔 現在、東京都と合同で聾啞学校の国際交流をサポートしているが、もう少し拡大して行きたい。 〕

(12). 国際交流

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④ 3 2 1
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 ③ 2 1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 ③ 2 1

① 課題

〔 卒業後の海外での活躍の把握を確認すること。留学生の在籍数を一定(約7%以内)にすること。 〕

② 今後の改善方策

〔 卒業生の帰国後の連絡を密にして、支援する方策を計画する。 〕

③ 特記事項

〔 現在、18ヶ国 51名が留学生として在籍しているが、この留学生数を維持し、国内学生との交流が互いに刺激し合うことに期待したい。 〕

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

(1). 教育評価

本校は、美術デザインの造形教育アカデミーとして、66年以上の歴史と伝統を培ってきた。そして、数多くの優れた人材を輩出してきた。美術・デザインの専門知識を保有する教育機関として比類ないものと自負している。本校では、毎年カリキュラムの研究を重ね、国際的な視点から美術・デザインの教育を行い、国際感覚を培い、本年に於いても同様に行い、教育内容等は一定の成果を上げる事ができた。今後更に、今以上の成果を上げるためにカリキュラムの研究を重ね、教育内容の充実を計っている。更に組織的かつ継続的な体制で取り組み、結果を積極的に情報開示する事が肝要である。また、中国国立中央美術学院から毎年本校中国水墨画へ教授の派遣を依頼し、国内にはない高い水準の教育を保っている。本校では「歴史と伝統」を再点検・再評価しつつ、社会に対しては教育機関として自覚し、うちに対しては学習者の立場や利益等を最優先に考慮し、産業界の意見を大きく参考にしての職業教育の重要性を考えていかなければならない。

(2). 財務評価

平成25年度の学生募集に於いて、平年より増加し、財務上多少良くなったが総体的には学生数が減っている。繰越資金等の活用により、学校運営上支障なく運営出来た。

(3). 一般的評価

本年度は、インターシップなど各企業との連携を図り、学校・学生・企業との職業教育の理解が深められた。また、イラストレーターなどによるセミナーなど多数行い、学生が学校外での、さまざまな体験が出来た。これからは、内外の交流を活性化し、異業種業界からも講師を招き、本校生徒の活発な交流を促すよう働きかける。また、国際美術・デザイン協会AIAS主催のワークショップ参加により、職員の能力向上と国際感覚を養うことが出来た。この他多種あるが、本年はある一定の評価を得ている。その他としては、東京都と共同で、東京都の聾唖学校の海外研修を10年以上にわたり支援し、非健常者の将来のための活動を行い、広く社会貢献を実施している。

5. 学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告書は、学校関係者評価委員として、
妥当な評価であることを確認し、認めます。

平成26年7月2日

学校関係者評価委員 小松原女子高等学校 校長 富樫 強

学校関係者評価委員 有限会社エスプランニング 代表取締役 杉崎 厚子

学校関係者評価委員 長坂税務会計事務所 中村 真太郎

学校関係者評価委員 ソニー生命保険株式会社 新宿ライフプランナーセンター
第8支社 課長代理 石井 聡

貸借対照表

平成26年 3月31日現在

単位千円

資産の部		負債の部	
固定資産	4,552,401	固定負債	2,365,872
		流動負債	537,860
		負債の部合計	2,903,732
流動資産	1,274,024	基本金の部	
		第1号基本金	2,800,000
		基本金の部合計	2,800,000
		消費収支差額の部	
		翌年度繰越消費収入超過額	122,693
		消費収支差額の部合計	122,693
資産の合計	5,826,425	負債の部・基本金の部及び 消費収支差額の部合計	5,826,425

資金収支計算書

平成25年 4月 1日から
平成26年 3月31日まで

単位千円

収入の部		支出の部	
学生生徒等納付金収入	910,254	人件費支出	413,141
手数料収入	6,733	教育研究経費支出	93,439
補助金収入	10,894	管理経費支出	296,302
資産運用収入	7,167	借入金等利息支出	35,971
資産売却収入	38,007	借入金等返済支出	100,000
雑収入	51,862	設備関係支出	12,196
前受金収入	414,416	その他の支出	105,641
その他の収入	104,642	資金支出調整勘定	-21,253
資金収入調整勘定	-366,204	次年度繰越支払資金	926,614
前年度繰越支払資金	784,280		
収入の部合計	1,962,051	支出の部合計	1,962,051

消費収支計算書

平成25年 4月 1日から
平成26年 3月31日まで

単位千円

消費収入の部		消費支出の部	
学生生徒等納付金	910,254	人件費支出	424,021
手数料	6,733	教育研究経費支出	127,008
補助金	10,894	管理経費支出	302,685
資産運用収入	7,167	借入金等利息支出	35,971
資産売却差額	13,262	徴収不能引当金繰入額	1,095
雑収入	84,679	資産評価損	213,966
帰属収入合計	1,032,989		
消費収入の部合計	1,032,989	消費支出の部合計	1,104,746
		当年度消費収入超過額	-71,757
		前年度繰越消費収入超過額	194,450
		翌年度繰越消費収入超過額	122,693